

今年になって陸上競技部の部室を〇Bと部員で整理して見て、青木会長に報告され大騒ぎとなり、大島さんのもとに届けられたと云う。コピー機もない時代に書き送ったもので、全然覚えていないが、現在と殆んど変わらぬ私自身の筆跡、内容は次の様に便箋に書いたものだ。要所をそのまま記すと、

「前略、三商大戦要項落筆致しました。……………中川部長、田中主将以下十五名三十日八時五十二分着の彗星号にて、上京致します……………」

なお米は持参致しますが、到着日の晝食と夕食、翌日の朝・晝と八月一日の朝食をお願いします……………

……………大阪市立大学陸上競技部
マネージャー 泉 裕
一橋大学陸上競技部

大島 和郎 様

よくもこんな手紙が、それもコケラ落しと云う事で五十九年ぶりに訪れた一稿で、それにこの内容……………と感慨に耽る間もなく、大島氏と共に、乾杯の段上に引っぱり上げられた。(大島氏は、かの有名な石原慎太郎氏と同期で、現在は自民党栃木県連の最高顧問で県会議長とか要職に就かれています)

「コケラ落し」の大会と云うことで母校陸上部応援の為にたまたま訪れ

た東京国立。まさかこんな事件が待っていたなんて。

大島氏の興奮、熱狂ぶりに驚愕し、呆然として祝杯を手に、段上に立ち尽くした。

大島氏の音頭に合わせて、私も共に乾杯を繰りかえす。

「私も八十歳だが、この泉君も八十歳！ 年齢よりはずっと若く見えるだろう！ 陸上部にずっと関わって来たからかも知れん！ 永く生きていると、こんな素晴らしい出会いが待っているとは」乾杯が終わっても大島氏の咆哮は続く。

「五十九年前のこの手紙を見てくれ、何と…(米を持って行くから、五食喰わせろ)」と書いてある。当時はそういう貧しい時代だった。豊かな現代に生きる若い諸君は、大いに競技生活を樂しみ、将来も永く陸上部に関わって行って欲しい」。

壇上では次ぎ次ぎと各種目の優勝が上がり、優勝カップでの廻し呑みが延々と続けられた。

我々老年組は時を見計らって、それとなく挨拶をし、最終新幹線に乗るべく、会場をあとにした。

後記 大島氏は「あの手紙は、事の顛末を記して、長く家宝とする」と云っておられた。